

1. 令和5年（2023年）9月19日午前10時
豊中市教育委員会会議を第二庁舎大会議室に招集する。

2. 本日の出席委員等

教 育 長	岩 元	義 継
教育長職務代理者	山 野	佳世子
委 員	赤 尾	勝 己
委 員	松 本	裕 美
委 員	堀 田	博 史
委 員	黒 田	久美子

3. 本日の議事日程

第1	議事録署名委員の指名について
第2	前回議事録の承認について
第3	教育長等の報告について
第4	その他

4. 本日の出席事務局職員

事務局 長	長 坂	吉 忠
教育政策 監	中 尾	栄 一
理 事	藤 原	二 郎
次長兼教育総務課長	田 上	淳 也
次長兼社会教育課長	北 村	宣 雄
次長兼教職員課長	森 山	幸 雄
参 事	堤	昌 子
教育総務課長補佐	松 村	有 崇
学務保健課長	中 積	信 也
走井学校給食センター所長	浅 野	篤 志
学校施設管理課長	桑 田	浩 一
社会教育課主幹	久 住	有 美
読書振興課長	須 藤	光 夫
読書振興課主幹	西 口	真 理
豊中市教育センター所長	森 中	克 嘉
学校教育課長	藤 崎	直 紀
学校教育課主幹	井 上	倫 子
児童生徒課長	松 本	光 真
学び育ち支援課長	津 田	晋 慶
学び育ち支援課主幹	橋 本	
庄内公民館長		

5. 本日の書記

教育総務課総務係長	南	幸 太
教育総務課主査	外 園	博 人

— 議 事 —

岩元教育長

ただいまから教育委員会会議を開催いたします。

まず、本日の教育委員会会議の進行について教育委員のみなさまにお諮りします。

会議時間の短縮のため、本日の会議の進行については、議事日程の朗読や議案等の朗読は省略したいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、本日の教育委員会会議の進行につきましては、議事日程の朗読や議案の朗読は省略させていただきます。

本日の会議の成立要件をご報告ください。

南書記

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、教育長及び在任委員の過半数が出席されていますので、本日の会議は有効に成立していることを報告いたします。

岩元教育長

本日の議事日程については、すでに送付のとおりです。

岩元教育長

日程第1・議事録署名委員の指名につきましては、今回は山野委員と堀田委員にお願いいたします。

日程第2・前回議事録の承認につきましては、既に会議録を委員の皆様方に配布しております。また、署名委員のご署名をいただいておりますので、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

赤尾委員

13ページ及び14ページの各発言部分のところで探求という記載がありますが、探求の日を求めるという意味での使い方ではなく、総合的な探究の時間という意味で

の使い方であることから、極める研究である探究という記載になるのではないかと
思います、いかがでしょうか。

岩元教育長

13 ページ及び14 ページの各発言部分の探究という記載が誤字で、求ではなく究
で、探究ではないかということですが、修正するという事によろしいでしょうか。

赤尾委員

修正をお願いしたいと思います。

岩元教育長

では、その部分を修正した上で、その他の部分については原案のとおり承認するこ
とにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

ご異議がないので、前回議事録の承認につきまして、ご指摘の部分を修正した上で、
その他の部分については原案のとおり承認することにいたします。

つづきまして、日程第3・「教育長等の報告について」を議題といたします。

長坂事務局長

私から1点、経営戦略方針についてご報告させていただきます。

豊中市は、9月7日に経営戦略方針を公表しました。

この方針では、「こども政策の充実・強化」を来年度の経営戦略において重点政策
に位置付け、「子育てしやすさNO. 1」をめざし、子育て世帯が将来にわたり住み
続けたいまちを実現するため、計画的に取り組を進めていきます。

教育委員会に該当するものとしては、1つ目は「小1の壁」を解消するため、こど
も園から放課後こどもクラブへの接続をスムーズに行うこと、放課後こどもクラブに
おいて民間資源を活用した習い事機能の提供、夕食の提供及び一部のクラブでの預か
り時間の延長及び休日の実施等を挙げています。

2つ目として、教育の質・機会をハイレベルにするため、AIドリルによるパーソ
ナライズ教育と、児童生徒の学習状況に応じた具体的な支援・指導が可能となる教育

データサイエンス機能を強化することで、府内NO. 1の教育DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進すること、3つ目として、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置、修学旅行費、副教材費の無償化を実施することで、誰も取り残さない学びを推進していきます。

岩元教育長

ただいまの報告について、ご質問、ご意見はございますでしょうか。
よろしいでしょうか。

（ありませんの声あり）

岩元教育長

それでは、ご質問等がないようですので、教育長等の報告についてを終了することにいたします。

つづきまして、日程第4・「その他」といたしまして、「教育委員会公式ツイッター運用実績報告について」を、事務局より報告のうえ、意見交換を行います。

それでは、内容の説明をお願いいたします。

田上次長

1月4日から運用を開始しています教育委員会公式ツイッターの実績を報告いたします。主に8月31日時点での数値となります。

まず、1ページ目のグラフですが、月毎の実績となります。インプレッション数は面グラフで表しており、ツイートを見た回数となります。7月からインプレッション数が急減していますが、これはツイッターの使用ルールが変わったことによるものと考えています。

次に、配信数であるツイート数はブルーの棒グラフで、他機関の配信を教育委員会がそのままツイートしているリツイート数はオレンジの棒グラフで表しております。

折れ線グラフは、1日あたりのインプレッション数となります。

また、グラフの下の方には、新しいフォロワー数とエンゲージメント率を記載しています。フォロワー数は、このツイッターでの配信を見たい人が登録している数になります。エンゲージメント率は、いいねや添付している画像をクリックしたり、リツイートしたりするなどツイートに反応した回数をインプレッション数で割った率で、いかにツイートを興味深く見ていただけているかの指標となるものです。

それでは、このページの分析ですが、インプレッション数に着目していただくと、概ねツイート数が多くなれば多くなる傾向で比例関係にあります。平均となる1日あたりのインプレッション数は一般的にフォロワー数の2、3倍と言われておりますので、6月までの実績が非常に高い傾向であって、7月、8月の実績は一般的な数値であり、決して低いものではないことが分かります。

反対に、エンゲージメント率は、分母であるインプレッション数が多くなればなるほど小さくなるため、反比例傾向です。

また、新しいフォロワー数は、運用開始した当初は多くの人にフォロワーになっていただいていたのですが、最近は新規のフォロワーの獲得は少なくなっています。平日1回以上のツイートをしておりますが、配信している担当課が今のところ限られているため、ツイートの内容に偏りがある影響もあるものと考え、試行的に、他の機関が配信している関係ツイートのリツイートを7月に入ってから意識的にするなど、新規のフォロワーの獲得に向けて、取り組んでいます。このほか、事務局内で会議を重ね、適宜ルールも変更するなど、運用しているところです。

2ページをご覧ください。

ツイッターの運用を開始した当初のねらいに対する分析です。

課題としては、それまで活用していたメールマガジンのシステムが廃止されるという致し方ないものもありましたが、メールマガジンの登録者のみという限定的な配信であったこと、また内容も限定的なものであり、配信回数も限られていたものでした。

ツイッターに移行してからは、その特性上、登録者いわゆるフォロワー以外の人も見ることができること、配信内容もさまざまなものを掲載できること、一定の配信ルールはありますが、適時配信が可能であること、特にツイッターを見た反応をリアルタイムで把握することができる点が大きく異なる点で、実際に運用してみて、今までの課題は解消できていることを確認しています。

ページの下段、左には直接的効果を記載しており、ツイッターにより市民の反応が把握できたことや、さまざまな事業内容を配信し教育行政への理解促進につなげることができたことにより、情報発信の強化を図ることができたものと考えています。

また、右には、副次的効果を記載しており、市民の反応を把握することにより、より市民視点での事業展開を図ることができることや一部の課だけではなく、ツイッターでの配信を教育委員会一体の取組みとしたことにより、人づくり・組織づくりにもつながりつつあると考えています。

3ページをご覧ください。

ここからは年度ごとに分析をしております。

まず、令和4年度分で毎日の状況をグラフ化しています。なお、休日は原則ツイートしていませんので、インプレッション数は少ない傾向です。2月13日月曜日がツイッター開始後のインプレッション数の最高を記録しています。また、ツイート数が限られている割に高い数値ですので、その日のツイートは注目度が高かったものだと推察されます。

4ページをご覧ください。

2月13日月曜日のツイートを記載しています。

まず、学校でのインクルーシブ教育をテレビで取り上げられるというものや、団体の会議や公民館での事業内容を写真付きで配信しているものでした。

次に、5ページをご覧ください。

令和5年度分の状況です。

今年度の最高インプレッション数は、4月14日金曜日に記録しています。なお、ツイッターの使用ルールが変更になった7月からの実績を見ると、7月5日水曜日に最高記録となっています。

6ページをご覧ください。

4月14日金曜日のツイートです。他団体のツイートを引用してツイートをしているもの、イラスト等を引用しているものです。

続いて7ページには、教育委員会会議の開催のご案内、展示会のお知らせとなっています。下段には現在のツイッターの概要を記載しておりますので、ご参照ください。

次に、8ページをご覧ください。

7月5日水曜日のツイートです。学校給食センターでの保護者の見学や会議の様子を写真付きで配信しているものです。

続いて、9ページには、郷土資料館から展示のお知らせやいぶきでの事業の様子を写真付きで配信しています。

10ページをご覧ください。

上2つは事業のお知らせで、下はリツイートをしています。この日は7件配信しており、ツイート数によりインプレッション数が多くなっています。ツイートを個別に見ていくと、写真などの画像で配信したものはそうでないものよりは、インプレッション数が多い結果となっています。

11ページをご覧ください。

今までは、1日単位を基にその実績について、分析してきました。このページでは、7月以降のツイートごとに着目して、記載しています。

まず、左側ですが、インプレッション数が最も多いツイートになります。8月1日

火曜日の午後2時に配信したもので、いぶきにおける消防訓練の様子です。やはり写真付きであり、エンゲージメント率も月平均3.1%よりも高い5.3%という結果となっています。

次に、右側のものですが、エンゲージメント率が最も高いツイートになります。これは、8月31日木曜日の午後1時に配信したものです。教育委員の皆さまに毎月お願いしておりますコラム等になります。こちらにも画像を添付しています。まだ、配信してから比較的時間がないため、20.2%という非常に高い率となっています。

最後に12ページをご覧ください。

資料作成・印刷の関係で、9月15日現在で791フォロワーとなっていますが、本日9月19日の現時点で793人でございます。

今回の運用実績を分析するなかで、今後の方向性を記載しておりますが、リツイートも含めて積極的にツイートしていくこと、特に小・中学生などが参加している事業内容などの他団体のツイートにもアンテナを張りリツイートをしていき、現在、平日最低1回のツイートを複数回配信することをめざすとともに、そのツイートでは写真等を貼付し、視覚的にもアピールしていきたいと考えています。

報告は以上となります。

岩元教育長

ただいまの報告について、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

赤尾委員

4ページのツイートのホースホルン制作とは一体どういう制作なのかご教示ください。もう一点、6ページのツイートの青少年交流文化館いぶきでの関西にある大学の落語研究会有志による落語は、どこの大学から参加があったのでしょうか。

久住主幹

ホースホルンについてですが、昨年度の青少年団体連絡協議会の定例会議において、毎年、青少年活動団体の交流の場があるのですが、その交流会の事前打ち合わせの様子をツイッターに上げています。その交流会の内容ですが、昨年度はホースホルンを作らしようという内容です。ホースというのは通常の散水用のゴムのホースでして、それをホルンのように丸め、専用の吹き口から息を吹き入れて、音を鳴らします。吹くための器具が楽器屋で売っているのですが、それを購入して、通常の散水用ゴムホースに繋げて音を出すという、ホースホルンを作って演奏してみようという内容の交

流会を青少年団体連絡協議会の方たちが企画しました。その事前の打ち合わせで実際に試しにやってみたというものがこの記事です。

落語研究会につきましては、関西にあります大阪大学、神戸大学、関西大学、追手門学院大学などの学生たちが連合を組んで、関西落研連合を組織しています。その関西落研連合の大学生に、毎月第三日曜日午後、青少年交流文化館いぶきの3階ほんのひろばでいぶき寄席として落語をしていただいています。

松本委員

ツイッターからXに変わってインプレッション数がすごく減ってしまったことは、何か残念な気もするのですが、今のところどうしようもないことなのでしょうか。

田上次長

これはルール変更によって、上限数や一人ひとりが見る回数が定められたといったところがありますので、豊中市としてどうにかできるものではないとは思っております。ただ、実績報告で申し上げたとおりでいえば、1日の平均インプレッション数は大体フォロワー数の2、3倍ですので、一応その範囲内に入っており、今のところ悲観的に思わなくてもいいのかと思っております。むしろ以前が結構、同じ人が何回も見て注目していただいていたのかと思っております。

堀田委員

1ページのグラフで例えば8月は4万7,761件のインプレッション数があるということですが、これは決して多くないと思っています。平均インプレッション数は大体フォロワー数の2、3倍とおっしゃっていましたが、実際には2、3倍には到達してないのかと思います。写真が入っている記事がありますが、写真自体のインプレッションは多いですが、全体からすると6月から減っていますので、写真を入れると増えるのではなく、写真を入れようが入れまいがあまり平均的には変わらないような気がしています。インスタグラムとの連携をすとか、SNS間の連携のようなものを考えないと、今後微減していくような気がしたりもしています。30歳代以下の層は、もう今はツイッターではなく、インスタグラムが主流に変わってきていますので、ターゲット層を事前に少し聞きましたが、30歳代の親御さんが見るのであれば、やはりインスタグラムとのうまい連携のようなことを考えていかないといけないと思いました。

田上次長

対象者につきましては、やはりツイッターの特性上、比較的若い方ですので、30歳代から下という年代を想定して、ツイッターを始めており、小・中学生やその親御さんまでをまずは主な対象とは思っております。また、学校給食課において、インスタグラムを始めております。そのインスタグラムとこのツイッターについては、対象のすみ分けをしています。こどもとその保護者を対象に学校給食の配信をインスタグラムでしております。しかしながら、ツイッターにつきましては学校ばかりでなく、教育委員会として社会教育とか、様々な分野もありますので、そういったところも配信してまいりたいと思っております。ご指摘のようにインスタグラムや、本市のほうでは、ほかのSNS、全庁的にはLINEやツイッターについてもしておりますので、そういったところと連携してまいりたいと思っております。

山野委員

事業のある課はいろいろな発信や学校給食課でもインスタグラムを発信しているということですが、私も、どこかに繋ぐというような方法がいいのかと思っておりますが、学校はホームページを上げているのですね。私自身も以前、写真などを授業があるたびに載せて主にしてそこに小さいコメント、様子などを書いていましたが意外と見てくださるのです。特に修学旅行や林間に行ったときに、「今、このような状況です。」ということ伝える方法はそのときはメールくらいしかなかったのです。速報をしたかったのですが、それが保護者の方の反応が良く、その後もやはり逐一掲載しましたが、大変分かりやすいと行っていただきました。今、学校自体がホームページ以外に何か発信方法があるのか、その学校自体にも例えばインスタグラムなどができるのかどうか。それはシステムの関係で可能なのか、個人情報のあることあるので、以前も心配しながらしてはいたのですが、その辺はどうなのか、学校と繋げてしまうと割と学校の情報も飛べていいのかと思ったのですが、教えてください。

田上次長

学校につきましては、保護者との連絡ツールとしてコドモンを昨年度から使っておりますので、コドモンで配信はできることになっております。また、ご指摘のようにホームページ上でも配信していると思います。ただ、ツイッターにつきましても、できれば学校からの依頼に基づき、配信していきたいと校長会議を通して申し上げておりました、取組みを推進していきたいと思っております。

堤参事

学校からの情報提供に基づいて配信しております。特に写真はできるだけ学校から提供してもらうようにしています。

学校に取材が入るような特別な授業や行事がある場合は教育委員会事務局にも情報が入ってきますので、学校と連携しながらツイッター配信をさせていただいているところです。

学校のホームページの写真を掲載した際に、広報戦略課からは、SNSで配信するには、画像が荒いと言われましたが、肖像権のことや子どもたちの画像ということを慎重に図りながら、学校とも連携してこれからも配信していきたいと思っております。

堀田委員

意見ですが、学校といえば幼稚園もですが、公立私立は違うとは思いますが、私立はほとんどインスタグラムで情報発信していますよね。そのような状況に慣れた保護者の方などが、結局小学校に上がって発信される量が、写真などの制限がかかるというふうなことになったときに、そこでのツイッターやインスタグラムの登録フォロワーが減ってくるという傾向が見られると思うのですね。これはセキュリティポリシーであるとか、その辺の考え方で幼稚園はよくて、なぜ小学校では駄目なのか。幼稚園の子どもの方が危機管理といえば自分で自衛ができませんので、そういう意味では難しいかなと思うので、そのあたりのセキュリティポリシーの整備というものが大変必要になって、子どもが写っているから駄目という昔からの一連の考え方で、我々大人がやはりガードしがちになりすぎていて、このようにSNSを駆使するような時代で、そのあたりの許可の取り方というものも少し変化していかないといけないのかとったりします。

岩元教育長

ご意見として、承りたいと思います。

黒田委員

例えば先ほど話に出たホースホルンは明らかにこの写真ではないと思うのですよ。その写真であったら注目が集まるわけですよ。何かもったいないと思ったのと、あとはやはり私がどうすれば保護者としてフォローして見ていきたいかと思うと、やはり、自分に関係していることが載ったときは、周りがみんなフォローするということ

だと思うので、少し提案ですが例えば、各学校自慢を載せれば絶対その学校の関係の人は見ますよね。それを校長先生や生徒会がやるなども大変魅力的ではありますが、やはり難しいのであれば、豊中市のアイドルのまちかねくんを縫いどりで何か学校の記事と一緒に載せるなどすれば、その学校の保護者が見ると思いますし、フォローすると思うのですが、これは一つの提案です。

岩元教育長

いい提案をいただいたと思いますので、学校にどのようにアピールしてもらおうかというのは工夫の余地が多くあると思いますので、学校サイドと少し調整しながら考えていきたいと思います。

山野委員

私も先ほどのご意見と同じようなことを思っています、PTAの広報担当の方の写真が数多く載っているのです。学校でホームページにあげたりするときも、やはり授業の様子を掲載するときには大変配慮していました。本当に画質を粗々しているのも事実でしたので、その辺の整備についても、先ほどのご意見はなるほどとすごく思いますので、そのあたりが難しいのですが、専門の方に聞きながら少し方法を変えていかないと時代に遅れていってしまっていて、説明ができないことになってしまうのではないかと今、学校に行っていたら思うので、そのあたりは今後検討していただければと思いました。

岩元教育長

写真については研究をお願いしたいと思います。

教育委員会、学校からの発信ということでも、教育委員会会議や点検評価委員会から、発信力が弱いというご批判を随分受けてきたと思います。いいことをやっても、なかなか皆に知ってもらわないと、生かされないということも随分言われてきたと思いますので、そういう意味ではこのツイッターが一つ大きな転機になっているのかと思いますし、私は、受身から攻めの姿勢に変わったのかというふうに思います。毎日1個配信するのは大変なことなので、あとは工夫ですね。見てもらえるための工夫でアピールしたいことは多分たくさんあるはずですが、それを見てもらうためにどのような仕掛けができるのかというところで工夫していくことが、これから必要かと思いますので、引き続きよろしくをお願いしたいと思います。

岩元教育長

ほかに何かご質問等ございませんでしょうか。

(ありませんの声)

岩元教育長

それでは、日程第4・「その他」について終了することにいたします。

以上で本日の議事日程はすべて終了いたしました。これをもちまして教育委員会会議を閉会いたします。